

杜春会ミニ通信第5号 7911

国会が前代未聞の醜態をさらけ出している間に、朝晩めっきり冷え込むようになってきました。会員の皆様、お元気で過ごしのことと存じます。

さて、この度'79年版杜春会会員名簿を作成いたしましたのでお届けします。会員の皆様の要望にもとづいて、今回は県別名簿も追加しました。会員間のコミュニケーションをはかる武器として、今後もできるだけ利用しやすいものにしてゆきたいと思ひます。御意見、御感想をいただければ幸いです。

また、本号では、東北大学建築学科創設30年を昭和56年春に控え、その記念事業についての杜春会としての方針などについてお知らせいたします。これについては広く同窓生の御意見をお伺いしなければならぬ重要な課題ですので、会員の皆様の御意見をお待ちしております。よろしくお願ひいたします。

□東北大学建築学科創設30年を控えて

東北大学建築学科は昭和26年創設以来、1000名余の同窓生を輩出してきました。同時に学科の教職員の御努力によって研究教育に多大の足跡を蓄積してきました。そして昭和56年には創設30年を迎えることとなります。

杜春会としては、今春の総会において学科創設30年記念事業に取り組むことを確認して以来、役員会で記念事業の内容について検討してまいりました。

10月20日には在仙幹事会（18名出席）を開き、記念事業の内容についての活発な討論を行ない、一定の方針を確認しました。

また、この杜春会の意向は桂会長より11月初旬の学科教室会議に伝えられました。学科教室会議の意向も反映した現段階での記念事業の概要は以下の通りです。

- (1) 学科創設30年の記念事業は昭和56年5月にあわせて行なう。
- (2) 記念事業は建築学科と杜春会との共催で行なう。
- (3) 記念事業としての企画は次の3つを柱とする。
 - ① 記念式典、パーティ、（記念講演、記念セミナー等も合わせて検討する）
 - ② 記念誌発刊
 - ③ 記念設計コンペ

(4) 以上の企画について、各々学科および同窓会から委員を選出し、委員会を発足させる。とくに記念誌発刊についての編集委員会は早急にスタートさせる。

* 記念事業の概要は以上の通りです。詳細につきましては逐次、ミニ通信でお知らせします。

* 記念誌につきましては広く同窓生から原稿をお寄せいただきたいと思います。また後日、原稿依頼をする予定ですので御心づもりをしておいて下されば幸いです。

* また今後発足する委員会につきましても、杜春会より何人かの方々に委員の委嘱をお願いする予定ですので御多忙の折と思いますが御協力下さいます様、かさねてお願いいたします。

□会員の集い

14回生チャンコ会報告

14回生東京支部では年1回目黒区緑が岡のチャンコ料理店に20数人が集い、安酒をくみかわし近況などを報告し合っています。

いままでは、質素に飲んできていたが、10月22日の会合は大枚五千円の会費で東工大の吉岡、青木両先生をご招待して威儀を正した盛大な宴を催したので、杜春会に報告することが衆議一決しました。なお、両先生とも足どり確かに終電には飛乗りましたことを附記します。

(幹事吉田正邦記)

17回生卒業10周年記念祝賀会

春うららかな、ポカポカ陽気のある日。東京の細野が3,000円持って来仙した。驚いて、氏に理由を問いただすと、東京での同級の連中での飲み会で『他の回生も10周年の記念会をやっているそうだから、僕達もやるべきだ』ということになった。そして、この3,000円は飲み代の残りであるから、準備資金として有効に使うと欲しかったという事であった。この事をテキパキと告げると、氏は機上の人となったのであった。

さて、11月3日午後5時仙台市役所西隣の勾当台会館に、10年の風雪に耐えた男達が堂々と、(なかには泳ぐ様によろけている者もあったが)入場。会費2万円の第一関門(受付)を無事通過したものだけが、饗宴の席に着く権利を得るのだ。17回生、総勢23名(入野の統計によれば計画系はほぼ半分ずつという結果が出た。この中には何故か18回生のM氏も混っていた。又、欠席ながら会費の一部を負担してくれた岩田の名を忘れる事は出来な

い。)赤沼の名司会のもとで会は始まった(記録写真班として御供が任命されている。)

はじめに御招待の先生方(高橋、志賀、佐藤、寛、平井、柴田の各先生方)からの御祝辞があり、そのなかでも、我々幹事を驚かせたのは、某先生の「卒業10周年記念会は君達の企画が初めてである。この様に良い会は、今後前例としてしっかりと受けついで欲しいものだ」という様な意味の事を言われた時であった。

会は進み、各卒業生の風雪の耐え方などを聞きながら、まわりを見廻すと、ひげを生やしている者、長髪のもの、背広にネクタイのもの、ヨレヨレシャツのものなど様々で、まるで現代の日本のあらゆる階層が一堂に会した感があった。建設会社で頑張っている者、設計事務所を設立したもの、海外で働いてきた者などいろいろであったが、何といても、東大で学位を取り、現在は雑誌編集に携っている細野などは異色中の異色であろう。さて、酒も残り少なくなってきたところで、場所を寿司屋の2階に移しての2次会。これは、1次会とは打って違って、狂宴の場となった。

一人一曲という仕事より厳しいノルマ。しかも、歌い終えた人は、次に歌う人を指名する事が出来るというルールは、会を沈痛なものにし、皆うつむき加減であった。特に自分の唯一の持ち歌を、先に歌われてしまった者の心は察するに余りがあった。

しかし、なかには指名を心待ちにしている者などがあり、頼みもしないのに、2、3曲も歌う者などあらわれて、次第に会は盛り上がり、「ほんでは、講義やっか」の一声で始まった高橋先生の国語の読み書きの講義、志賀先生の「かいがら節」佐藤先生の戦前の(日本が中国に迷惑をかけた時代の歌、という前口上あり)流行歌。寛先生の十八番「さんさしぐれ」柴田先生の延々と続いた「仙台小唄」などで絶頂に達し、市川の「赤とんぼ」に到って、時間は、ついに20年以上も逆もどりしてしまった。最後は飯渕の「凱歌」に合わせて、皆乱舞となり、全然関係のない他の部屋の酔客まで飛び込んで来て、大変な騒ぎとなった。それでも、最後は「学生歌」で締め、各々10年前の指導教官を囲んでの3次会という事になった。



あとで聞いた話だが、当時の指導教官とはぐれてしまったあるグループは、卒業生3人だけで想い出の大衆酒場で時を過ごしたという。

(飯渕記)

第12回生 月一会

この11月10日小雨の土曜日午後5時から、東京神田の「ぼたん」で4年ぶり2回目の同期会をもった。幹事の一人友田の精力的な追跡の結果全員の消息もとれ、大阪2、名古屋1、静岡1、東京13、栃木1、仙台7の25名が集まった。その上東京工大に移られた吉岡、青木両先生にも出席戴くことができた。

先生方のお話、この同期会・杜春会・佐々木先生の退官記念事業の報告、紹介を経て田代の音頭で乾盃、自己紹介に移った。

卒業以来15年、40近くなった各人の歴史を語るには3分間は短かかったに相違ない。間々欠席者の近況紹介もあって片平丁の日々がみえはじめたのは9時。看板となる。名残り惜しくも又々誰かの企画で再会することを約束して散会した。最後に杜春会名簿での大きな変更のみ列举しておく。浅輪：名古屋支店、友田：自営、松野：加えてインドネシア駐在。山森：東京工大建築学科である。
(文責・舛岡)

□佐々木嘉彦教授（計画第一講座）

来春停年退官——杜春会としても協賛

佐々木嘉彦教授は来春停年退官されますが、退官記念事業会がすでに発足し、事業内容の検討を進めているとの事です。事業会より先般杜春会への協力依頼の申入れがありました。役員会で検討した結果、協賛という形でPR、パーティの手伝い等の協力をしてゆくことを確認しました。今回事業会からの依頼状を同封いたしました。

出版案内

佐藤 巧 「近世武士住宅」 叢文社 50,000円

30年にわたる佐藤教授の武士住宅に関する研究の集大成

小倉 強 「増補 一人静」 北匠会

小倉先生の多年にわたって描かれた多くの図面、スケッチ、写真を挿入した随筆、講演集。最後に15首の歌も掲げられている。（この著書は杜春会で取次いでいますので御希望の方は御連絡下さい）

* 杜春会関係者の出版物についての案内欄を設けました。どうぞ御利用下さい。

□おねがい

会費を滞納されている方には振替用紙を同封しております。会費納入に御協力下さい。会員名簿には、未だ連絡先の不明の方が何人かおられます。おわかりの方は御一報下さい。